

ミカ書

Micah

旧約聖書

第1章

- 1 モレシエテ人ミカにあった主のことば。これは、ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、彼がサマリアとエルサレムについて見た幻である。
- 2 すべての民族よ、聞け。地とそこに満ちているものたちよ、耳を傾けよ。神である主は、あなたがたのうちで証人となり、主はその聖なる宮から来て証人となられる。
- 3 見よ。主は御住まいを出、降りて来て、地の高い所を踏まれる。
- 4 山々は主の足もとに溶け去り、もろもろの谷は裂ける。まるで、火の前の、ろうのように。坂に注がれた水のように。
- 5 これはみな、ヤコブの背きのゆえ、イスラエルの家の子の罪のゆえだ。「ヤコブの背きとは何か。サマリアではないか。ユダの高き所とは何か。エルサレムではないか。
- 6 わたしはサマリアを野にある瓦礫の山とし、ぶどうを植える畑とする。その石を谷間に投げ込んで、その基を暴く。
- 7 その刻んだ像はすべて打ち砕かれ、儲けはみな火で焼かれる。わたしはその偶像をすべて荒れすたらせる。それらは遊女の儲けで集められたのだから、遊女の儲けに戻る。」
- 8 このゆえに、私は嘆き、泣き叫び、裸足で、裸で歩く。私はジャッカルのように嘆き、だちょうのように悲しみ泣く。
- 9 まことに、その打ち傷は癒やしがたい。それはユダにまで及び、私の民の門、エルサレムにまで達する。
- 10 「ガテで告げるな。決して泣いてはならない。ベテ・レ・アフラでちりの中を転げ回れ。
- 11 シャフィルに住む者よ、裸になって恥じながら通り過ぎよ。ツァアナンに住む者は出て来ない。ベテ・エツェルの嘆きは、あなたがたから、立つところを奪い取る。
- 12 まことに、マロテに住む者は、病むほどに幸せを待ち望む。エルサレムの門に、主からわざわざわいが下ったのだ。
- 13 ラキシユに住む者よ、戦車に早馬をつなげ。そこは娘シオンにとって罪の始まり。実に、イスラエルの背きが、あなたのうちに見出されたのだ。
- 14 それゆえ、あなたは別れの贈り物をモレシエテ・ガテに与える。アクジブの家々は、イスラエルの王たちにとって欺く者となる。
- 15 マレシャに住む者よ、わたしは再び、侵略者をあなたのところに送る。イスラエルの栄光はアドラムまで行く。
- 16 頭を剃れ。あなたが喜びとする子らのために、その剃ったところを、禿鷲のように大きくせよ。彼らは捕らえられて、去って行くからだ。」

第2章

- 1 わざわいだ。不法を謀り、寝床の上で悪を行う者。朝の光とともに、彼らはこれを実行する。自分たちの手に力があるからだ。
- 2 彼らは畑を欲しがって、これをかすめ、家々を取り上げる。彼らは人とその持ち家を、人とその相続地をゆすり取る。
- 3 それゆえ、主はこう言われる。「見よ。わたしはこういう氏族に、わざわざいを下そうと考えている。そこからあなたがたは頭をもたげることできず、胸を張って歩くこともできなくな

る。それは、わざわざの時だからだ。」

- 4 その日、あなたがたについて 嘲りの声があがり、嘆きの歌が起こって言う。「われわれはすっかり荒らされてしまった。私の民の割り当て地は替えられてしまった。どのようにして私から移され、われわれの畑が背信の者に分け与えられたのか。」
- 5 それゆえ、主の集会には、あなたのために くじを引いて測り綱を張る者がいなくなる。
- 6 「戯言を言うな」と彼らは戯言を言う。「そんな戯言を言ってはならない。辱めを受けることはない。」
- 7 ヤコブの家がそんなことを言われてよいものか。主がこれを我慢されるだろうか。これは主のみわざだろうか。私のことばは、まっすぐに歩む者に益とならないだろうか。
- 8 「近ごろ、わたしの民は 敵として立ち上がった。あなたがたは、豪華な上着をはぎ取る。安心して通り過ぎていく者、戦いから帰って来る者たちから。
- 9 あなたがたは、わたしの民の女たちを、その楽しみの家から追い出し、その幼子たちから、わたしの誉れを永遠に取り去る。
- 10 さあ、立ち去れ。ここは憩いの場所ではない。ここは汚れで滅ぼされるからだ。それはひどい滅びだ。
- 11 もし人が風の赴くままに歩き回り、『私はあなたがたに薦めよう。ぶどう酒と強い酒を』と偽って言うなら、その者は、この民に戯言を言う者だ。
- 12 ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起こる。
- 13 打ち破る者は 彼らの先頭に立って上って行く。彼らは門を打ち破って進み、そこを出て行く。彼らの王が彼らの前を、主が彼らの先頭を進む。」

第3章

- 1 私は言った。「聞け。ヤコブのかしらたち、イスラエルの家の首領たち。あなたがたは公正を知っているはずではないか。
- 2 あなたがたは善を憎んで悪を愛し、人々の皮を剥ぎ、その骨から肉をそぎ取る。
- 3 わたしの民の肉を食らい、皮を剥ぎ取って、骨を打ち砕き、鍋の中のもののよう、また大釜の中の肉切れのように、それを切れ切れに裂く。」
- 4 そのため彼らが主に叫んでも、主は彼らに答えない。そのとき、主は彼らから顔を隠される。彼らの行いが悪いからだ。
- 5 預言者たちについて、主はこう言われる。「彼らはわたしの民を惑わし、かむ物が歯にあれば『平和があるように』と叫ぶが、口に何も与えない者には 聖戦を布告する。」
- 6 それゆえ、あなたがたには、夜にも幻がなく、暗闇にも占いが無い。太陽も預言者たちの上に沈み、昼も彼らの上で暗くなる。
- 7 先見者たちは恥を見、占い師たちは屈辱を味わう。彼らはみな、口ひげをおおう。神の答えがないからだ。
- 8 しかし、私には力が満ちている。主の霊によって、公正と勇気に満ちている。ヤコブにはその背きを、イスラエルにはその罪を告げる。

- 9 これを聞け。ヤコブの家のかしらたち、イスラエルの家の首領たち。あなたがたは公正を忌み嫌い、あらゆる正しいことを曲げている。
- 10 流血でシオンを、不正でエルサレムを建てている。
- 11 そのかしらたちは賄賂を取ってさばき、祭司たちは代金を取って教え、預言者たちは金を取って占いをする。しかもなお、彼らは主を当てにして、「主は私たちの中におられるではないか。わざわざは私たちの上に及ばない」と言う。
- 12 それゆえ、あなたがたゆえにシオンは畑のように耕され、エルサレムは瓦礫の山となり、神殿の山は木々におおわれた丘となる。

第4章

- 1 その終わりの日、主の家の山は、山々のかしらとして堅く立ち、もろもろの丘よりも高くそびえ立つ。そこへもろもろの民が流れて来る。
- 2 多くの国々が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」それは、シオンからみおしえが、エルサレムから主のことばが出るからだ。
- 3 主は多くの民族の間をさばき、遠く離れた強い国々に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。
- 4 彼らはみな、それぞれ自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下に座るようになり、彼らを脅かす者はいない。まことに万軍の主の御口が告げる。
- 5 まことに、すべての民族は、それぞれ自分たちの神の名によって歩む。しかし、私たちは、世々限りなく、私たちの神、主の御名によって歩む。
- 6 「その日—主のことば—わたしは足を引きずる者を集め、追いやられた者、また、わたしが苦しめた者と呼び集める。
- 7 わたしは足を引きずる者を、残りの者とし、遠くへ移された者を、強い国民とする。主であるわたしが、シオンの山で、今よりとこしえまで、彼らの王となる。
- 8 あなたは、羊の群れのやぐら、娘シオンの丘。あなたには、あのかつての主権、娘エルサレムの王国が戻って来る。」
- 9 今、なぜあなたは大声で叫ぶのか。あなたのうちに王がないのか。あなたの助言者は滅び失せたのか。それで、子を産む女のような激しい痛みがあなたをとらえたのか。
- 10 娘シオンよ。子を産む女のように、身もだえして、もがき回れ。今、あなたは町を出て野に宿り、バビロンまで行く。そこで、あなたは助け出される。そこで、主があなたを敵の手から贖い出される。
- 11 今、多くの国々があなたに敵対して集まり、そして言う。「シオンは汚されるがよい。われわれはこの目でじっとそれを見ていよう」と。
- 12 しかし彼らは主の御思いを知らず、その御計らいに気づかない。主は、打ち場の麦束のように彼らを集められたのだ。
- 13 「娘シオンよ、さあ、脱穀せよ。わたしが、あなたの角を鉄とし、あなたのひづめを青銅とする。あなたは多くの国民を粉々に砕き、彼らの不正な利得を主のために、彼らの財宝を全地の主のために聖絶する。」

第5章

- 1 今、軍勢をなす娘よ、勢ぞろいせよ。包囲網が私たちに対して設けられた。彼らは、イスラエルをさばく者の頬を杖で打つ。
- 2 「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」
- 3 それゆえ、彼らはそのままにしておかれる。産婦が子を産む時まで。そのとき、彼の兄弟のほかの者はイスラエルの子らのもとに帰る。
- 4 彼は立って、主の力と、彼の神、主の御名の威光によって群れを飼う。そして彼らは安らかに住まう。今や彼の威力が、地の果ての果てまで及ぶからだ。
- 5 平和は次のようにして来る。アッシリアが私たちの国に来て、私たちの宮殿を踏みにじるとき、私たちはこれに対抗して七人の牧者、八人の指導者を立てる。
- 6 彼らはアッシリアの地を剣で、ニムロデの地を抜き身の剣で飼いならす。アッシリアが私たちの国に来て、私たちの領土に踏み込んで来るとき、彼は、私たちをアッシリアから救い出す。
- 7 そのとき、ヤコブの残りの者は、多くの国々の民のただ中で、主のもとから降りる露、青草に降り注ぐ夕立のようだ。彼らは人に望みを置かず、人の子らに期待をかけない。
- 8 ヤコブの残りの者は異邦の民の中、多くの国々の民のただ中で、森の獣の中の獅子、羊の群れの中の若い獅子のようだ。通り過ぎるときには、踏みにじり、かみ裂けば、助け出す者はいない。
- 9 あなたが敵対する者に向けて御手を上げると、あなたの敵はみな絶ち滅ぼされる。
- 10 「その日—主のことは—わたしはあなたのただ中から、あなたの馬を滅ぼし、戦車を打ち壊し、
- 11 あなたの国の町々を絶ち滅ぼし、要塞をみな破壊する。
- 12 わたしはあなたの手から呪術者を断ち、占い師をあなたのところから絶やす。
- 13 わたしは、あなたのただ中から、刻んだ像と石の柱を断ち切る。あなたはもう、自分の手で造った物を拝まない。
- 14 わたしは、あなたのアシェラ像をあなたのただ中から根こそぎにし、あなたの町々を滅ぼし尽くす。
- 15 わたしは怒りと憤りをもって、わたしに聞き従わなかった国々に復讐する。」

第6章

- 1 さあ、主の言われることを聞け。立ち上がれ。山々に訴えよ。もろもろの丘にあなたの声を聞かせよ。
- 2 山々よ、聞け。主の訴えを。変わる事のない地の基よ。主がご自分の民を訴え、イスラエルと論争される。
- 3 「わたしの民よ、わたしがあなたに何をしたというのか。どのようにしてあなたを煩わせたというのか。わたしに答えよ。

- 4 わたしはあなたをエジプトの地から上らせ、 奴隷の家からあなたを贖い出し、 あなたの前にモーセと、アロンと、 ミリアムを送った。
- 5 わたしの民よ、思い起こせ。 モアブの王バラクが何を企んだか。 ベオルの子バラムが彼に何と答えたか。 シティムからギルガルまでに何があったか。 それは、あなたが 主の正しいわざを知るためであった。」
- 6 何をもって、私は主の前に進み行き、 いと高き神の前にひれ伏そうか。 全焼のささげ物、一歳の子牛をもって 御前に進み行くべきだろうか。
- 7 主は幾千の雄羊、 幾万の油を喜ばれるだろうか。 私の背きのために、私の長子を、私のたましいの罪のために、 胎の実を献げるべきだろうか。
- 8 主はあなたに告げられた。 人よ、何が良いことなのか、 主があなたに何を求めておられるのかを。 それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、 へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。
- 9 主の御声が都に向かって叫ぶ。 —あなたの御名を恐れることは英知だ— 「聞け、杖のことを。 だれがその都を指定したのか。
- 10 まだ、悪しき者の家には、不正の財宝と、 のろわれた升目不足の升があるではないか。
- 11 不正な秤と、欺きの重り石の袋を、 誤りなしとすることが、わたしにできるだろうか。
- 12 富む者たちは不法で満ち、 住民は偽りを言う。 彼らの口の中で舌が欺く。
- 13 わたしも、あなたを打って痛めつけ、 あなたの罪のゆえに荒れ果てるままにする。
- 14 あなたは食べても満ち足りず、 あなたの腹は飢える。 取っておいても保つことはできず、 保っていたものは、わたしが剣に渡す。
- 15 種を蒔いても、刈ることがなく、 オリーブを搾っても、油を身に塗ることがない。 新しいぶどう酒も、それを飲むことがない。
- 16 あなたはオムリの掟と、 アハブの家のすべての慣わしを守った。 あなたがたは、彼らのはかりごとに従って歩んだ。 それは、わたしがあなたを恐怖のもととし、 住民を嘲りの的とするためだ。 あなたがたは、わたしの民へのそしりを負う。」

第7章

- 1 ああ、なんと悲しいことだ。 私は夏の果物を集める者のよう、 ぶどうの取り残しの実を取り入れる時ようになった。 食べられる房は一つもなく、 私の好きな初なりのいちじくの実もない。
- 2 敬虔な者はこの地から消え失せ、 人々の間に、心の直ぐな者は一人もいない。 みな血を流そうと待ち伏せし、 互いに網をかけ合って捕らえようとする。
- 3 彼らの手は悪事を働くのに巧みで、 役人もさばき人も賄賂を求める。 有力者は自分の欲するまを語り、 こうして事をねじ曲げている。
- 4 彼らのうちの善良な人も茨のようだ。 心の直ぐな者も茨の生け垣に劣る。 あなたを見張る者の日、あなたの刑罰の日が来る。 今、彼らに混乱が起きる。
- 5 あなたがたは友を信用するな。 親しい友も信頼するな。 あなたの懐に寝る者からも、あなたの口の戸を守れ。
- 6 子は父を侮り、 娘はその母に、 嫁はその姑に逆らい、 それぞれ自分の家の者を敵とする。

- 7 しかし、私は主を仰ぎ見、私の救いの神を待ち望む。私の神は私の言うことを聞いてくださる。
- 8 私の敵よ、私のことで喜ぶな。私は倒れても起き上がる。私は闇の中に座しても、主が私の光だ。
- 9 私は主の激しい怒りを身に受けている。私が主の前に罪ある者だからだ。しかし、それは、主が私の訴えを取り上げ、私を正しくさばいてくださるまでだ。主は私を光に連れ出してください。私は、その義を見る。
- 10 私の敵はこれを見て恥におおわれる。彼らは、私に向かって「あなたの神、主は、どこにいるのか」と言った者たちだ。私の目は、確かに見る。今に、敵は道の泥のように踏みつけられる。
- 11 あなたの石垣を建て直す日、その日、国境が広げられる。
- 12 その日、アッシリアとエジプトの町々から、エジプトから大河まで、海から海まで、山から山まで、あなたのところに人々がやって来る。
- 13 しかし、その地は、そこに住む者たちのゆえに、彼らの行いの実によって荒れ果てる。
- 14 どうか、あなたの杖で、あなたの民を、あなたのゆずりの群れを牧してください。彼らは林の中、果樹園の中に、ひとり離れて住んでいます。どうか、彼らが昔の日のように、バシャンとギルアデで草をはむようにしてください。
- 15 「あなたがエジプトの地から出た日のように、わたしは奇しいわざを彼らに見せる。」
- 16 諸国の民は見て、自分たちのすべての力を恥じ、手を口に当て、彼らの耳は聞こえなくなります。
- 17 彼らは、蛇のように、地を這うもののように土をなめ、震えながら自分たちの洞穴から出て来ます。そして、私たちの神、主のみもとで、おじ惑い、あなたを恐れます。
- 18 あなたのような神が、ほかにあるでしょうか。あなたは咎を除き、ご自分のゆずりである残りの者のために、背きを見過ごしてくださる神。いつまでも怒り続けることはありません。神は、恵みを喜ばれるからです。
- 19 もう一度、私たちをあわれみ、私たちの咎を踏みつけて、すべての罪を海の深みに投げ込んでください。
- 20 昔、私たちの父祖たちに誓われたように、ヤコブにまことを、アブラハムに恵みをお与えください。